

■ サムス vs 電車痴漢

長距離移動には長時間の混雑、窮屈さが付き物だ。それがたとえ、科学文明が高度発達した惑星であろうと。

長髪痩身、金髪碧眼の美女サムス・アランは、わざわざ電車を利用する非効率性に僅かな煩雑さを感じつつ、マナーに従い吊り革を持って人混みの中を凌いでいた。

伝説級のバウンティハンターであるサムス。彼女が電車に乗る理由は、次の依頼者に会うためだ。

依頼者の待つこの惑星では大気中に配置された発電システム等の都合、飛行機の類が禁止されたエリアが存在する。

ちょうどそこに次の依頼者が待っており、仕方なく電車を利用していた。

（電車に乗るのも久々だな。……しかし、妙に視線を感じるような……）

サムスの今の装備はゼロスーツ。

首から下のほぼ全身を覆う青いボディスーツで、露出度は低く、身体のラインも出るため、少なくとも見た目には『丸腰』と言っていい状態だ。

警戒されないようにと武装を解除しただけで、サムスにとっては全く違和感のない格好だが、この星では奇抜な姿なのだろうか。

（装備……もしくは、体型が原因かもしれないな……）

この星の住民はサムスと同種の地球人種。容姿も個体差以上の違いはほぼ存在しないが、環境の違いからか、平均的な体型はサムスとはかなり異なる。

というのもサムスは比較的長身、適度に引き締まった身体つきに加え、大きく盛り上がったバストにヒップという、女性美の長所を集めたような理想体型。

しかしそれはサムスたちの文化での基準。文化ごとに基準は千差万別なため、浮いた外見となっている可能性は充分有り得る。

とはいえ、それを気にしては惑星間を渡って仕事などできない。

堂々と乗り継ぎ、長い乗車を続け……電車が一つ揺れた時、不意に後ろの少年の手がサムスの尻に当たる。

(……これは……痴漢とかいう奴では……)

電車内でよくあるらしいトラブルの一つ、痴漢。

当然サムスにとって不快なものであり、正義感からも許せない行為ではあるが、サムスの中には怒りや嫌悪以上に戸惑いの念が大きく広がっていく。

なにせサムスはその生い立ちから、直球なアプローチやセクハラを受けた経験がほとんどない。

また、ただでさえ満員な上に電車の揺れもあれば、多少触れるのは不可抗力。

相手が小柄なこともあり、身を支えるため手を伸ばした結果、事故で触ってしまっただけの可能性も充分有り得る。

(こ、これだけの混雑だ……多少は仕方ないか……?)

触れただけであれば実害もない。疑いがある、という段階の内は黙ってやり過ごそうとするが……再びカーブに入った時、少年の手は触れるどころか指を食い込ませ、必要以上に接触してきた。

(ま、また……っ！ こいつ、やはりわざと……！)

また電車が揺れたが、今度は不可抗力では済まされない、明らかに意図して尻肉を揉みだした。

事故であれば見過ごせるが、故意となれば話は別。

困惑はすぐ怒りに変わり、即座に対処しようとするが――

(下種め……)

すりゅ♡ ぎゅむうつ♡

「っ？！♡♡」

(こいつ、遠慮するどころか、更に大胆に……)

軽く払いのけようとしたが、サムスが動く直前に痴漢の手が前に伸び、今度は股間陪阨をまさぐってきた。

更に別の手は胸に添え、抑えるどころか逆にニヶ所を同時に触れられる。

ここまでのセクハラを受けたことがないサムスは驚愕で動きが止まってしまう。

だが、戯れもここまで。払いのけるという生易しい対処ではなく、肘鉄を喰らわせようと構える。……が、その際、また電車が強く揺れて対処が遅れ――

(っ、電車が……)

すりすり♡ びんっ♡

「んんっ♡」

(な、なんだ今のは？！ 身体が、痺れるような感覚が……)

僅かな隙、痴漢の手に乳首をこすられ、指で弾かれた時だった。

甘い痺れが胸から身体に奔り、サムスは全身の力が抜ける感覚に襲われた。

またも経験のない刺激と感覚……強烈な性的快感に、これにはサムスと言えど動揺させられる。

煩悩ごと払いのけようとするが、更なる刺激で再び身体が震え、あまつさえ喘ぎ声まで出してしまう。

(まさか、私が性的興奮を覚えるなど……有り得んっ！)

くりっ♡ ぎゅむんっ♡

「あ、はあっ♡♡」

【はは、伝説のサムスさんも意外と乳首弱いんだね♪】

「っ？！♥♥♥」

（こいつ、私を知っている？ しかも痴漢のくせに話しかけて……何を考えている？）

乳首をつねりあげられ、はっきりと官能的な声が出てしまった。

その甘い声を出したのに気を良くしたのか、なんと痴漢少年が話しかけてくる。

しかもサムスを知っており、それを承知で少年は痴漢してきたのか。

有名なサムスを知る者がこの星にいてもおかしくはないが……そんなことはどうでもいい。すぐにでも不屈き者の手を離さなければ。

痴漢の手を捻り上げようとするサムスだが、掴む前に痴漢の指が乳首を刺激し、快楽で力が抜けて引き剥がせない。

「弱くなど……いいからその手を離せっ！」

すりすり♥♥ ぎゅう♥♥

「離せと言っ、んん♥♥♥」

【ほら、もうピンピンじゃん♪ ああ伝説の戦士を気持ち良くできるなんてラッキーだなー♪】

（い、今は♥♥♥ いや……有り得ん♥♥♥ 何かの間違いだっ♥♥♥）

ぐり♥♥

「んあっ♥♥♥」

抵抗する様子すら少年を楽しませ、嘲られてもなお、まともに身体が動かせない。

乳首を責められるたびに言いやうのない感覚に襲われ、とても耐えることができずに喘ぎ続けてしまうのだ。

あまりの快感に恐怖すら感じ、息を切らしながら再度引き剥がそうとする。

しかし快感で身体が震え、またも上手いかず……

(なんなんだこれはっ♡♡ 思考と感覚が、蕩けていくような……いかんっ♡♡ 早く抜け出さねば♡♡)

ぐりぐりぐり♡ びんびんっ♡ ぎゅううっ♡

「貴様、これ以上触れるなっ♡♡ その手をつ♡♡ は♡♡ 離、せ、あぁっ♡♡ そこっ♡♡ 摘まむなぁっ♡♡」

(ち、力が抜ける♡♡ 対抗……しきれない……♡♡)

【あのサムスが痴漢に手も足も出ないなんてね♪ イチかバチか特攻してよかったよ♪】

「誰が……手も足も、出ないだ……っ♡♡ こんなもの……♡♡ すぐ、引き剥がし……♡♡」

ぐりっ♡

「んっ♡♡」

ぐりっ♡ ぐりっ♡ ぐりっ♡ びくんっ♡

「ん♡♡ や、め……動くなっ♡♡ つお♡♡ おほおっ♡♡」

びくっ♡ ひくうんっ♡

【あ、お尻は出たね♪ 触って欲しそうに突き出しちゃって……やっぱり欲求不満だった？】

「そ、そんなわけないだろうっ♡♡ これは……電車が、揺れ……いいからっ早くっ♡♡」

『——揺れます、ご注意下さい……——』

ガタンッ…… ぎゅううっ♡ ずりゅんっ♡

「んおっ♡♡ ほおおおっ♡♡」

(尻の間に、何かが当たって……♡♡)

【はは、ホントに揺れた♪ そだね、こっちも揺れてるから乳首摘まんて尻コキしても仕方ないよねー♪】

「き、さま……♡♡ 何を、押し付け……♡♡」

(これはまさか、男性器……♡♡ こんな場所で交わう気かっ？！♡♡ いくらなんでもそこまで許すと……)

抵抗できないのを電車の揺れのせいするが、今度は本当に電車そのものが揺れる。

より強く身体が押し付けられ、特に尻の谷間に不自然な熱感を覚える。

詳しく知る感触ではないが、位置や形状から、男性器なのはほぼ確実。

今度こそ語気を強めるが……サムスは痴漢が止まらないことより、周囲の反応の無さに意識が向く。

「おい！ いい加減に……っ？！」

（なんだ？ 他の乗客が全クリアクションしない……いくらなんでも不自然すぎる！？）

【あー気付いた？ 声出しても誰も気付かないよ、ボクが作ったバイオウィルスの効果でね♪】

「ウィルス、だと……？ ♥♥♥」

意気揚々に痴漢が語るのは、彼が使用したという新種のバイオウィルス。

いつの間にかサムスに対して使用しており、このウィルスに罹れば声の音波が調整され、直接触れた異性以外にはほとんど届かないようになるという。

近くの男の声も同様で、サムスを煽る言葉も周囲に気付かれることはない。

しかも、耐性のない者の性的感度を上昇させ、性感を得やすい身体にさせる効果まであるという。

「ふざけるな、そんな都合の良いものを、貴様が……あはうっ♥♥♥」

【この星、地味に科学力高いからね。こういう研究は進んでるんだよ♪ サムスさんは意外に耐性ないみたいだけど♪ サムスさんみたいなエッチなお姉さんは一番警戒しなきゃダメでしょ、こーいうの♪】

もみっ♥ もみゅんっ♥

「黙れ……私には、効かないっ♥♥♥」

ごりごりっ♥ むにゅっ♥

「おんっ♥♥ ほぅ……っ♥♥♥」

【興奮作用ガンギマリじゃん♪ よかったね、喘ぎ声バレなくて♪】

興奮剤に似た作用で性欲そのものも引き上げ、更に羞恥心を強めて精神的な抵抗力をも奪う。

信じがたい効果を、サムスのゼロスーツの上からも発揮しているが……この惑星の技術力があれば、一応可能ではある。

少年の徹底した薬物研究により、サムスはまさに痴漢被害者として都合のいい存在に仕立て上げられたのだ。

(有り得ない……いや、確かにこの手の脅威は予期しなかったがっ♥♥)

くりくりっ♥ ぎちゅうっ♥

「んおあっ♥♥ あ♥♥ つんくふうっ♥♥」

(不慣れとはいえっ♥♥ 興奮と羞恥が♥♥ 快樂がっ止まらないいっ♥♥)

信じがたいというよりは、予想だにしていなかった効果。

何せ直接的に命のやり取りをする場では考えられない作用で、もしパワードスーツを着ていれば容易に無力化できたはず。

身体に危険性があるものも本能的に対応できただろうが……快樂と生殖はむしろ本能的には望ましいもの。

ゆえに対応が遅れ、むしろ本能で迎え入れてしまったのか。

不快なはずの行為にも、パワードスーツすら装着できないほど胎の底から熱くなるのを感じ、サムスは初めて牝としての本能を自覚させられる。

(私の本能が、こいつを望んでいる……? ♥♥ いや違う♥♥ 私はっ♥♥)

【気持ち良いつて素直に言いなよ♪】

もみもみもみっ♥ ぎゅっむ♥ すりゅうっ♥

「誰が気持ち良くなどっ♥♥ 私は、ああっ♥♥ そんなものを♥♥ 押し付けるなあっ♥♥」

【たしかに、ちゃんと挿れてあげないとね♪】

ずちゅっ♥

「違……ひいっ♥♥」

また別のウイルスと溶液を使われ、スーツの股間部があっさり溶かされると、露わになった秘部に痴漢の性器が直接触れる。

そして直に押し当てられて分かる逸物の力強さに、サムスはかつて見た異形の、発達した性器を思い出す。

その時は地球人種では有り得ないであろうサイズや硬度に嫌悪していたが……まさにかつて見たものに匹敵する雄々しさと禍々しさを放っており、本能が恐怖を、そして高揚を覚えてしまう。

動揺も強く、つい振り払うのを忘れてしまう中、硬さと大きさと強引に突き立てられ……

(な……なんだ、これは♥♥ 本当に、人間のもののなのっ? ♥♥ こんなものを挿れられたら、私は……♥♥)

【これスゴいでしょ、女の人を気持ち良くさせるために改造したんだ♪ 色々分泌するし、ウイルスと合わせれば相乗効果で何倍も気持ち良くなれるよ〜♪】

(本能で察してしまう♥♥ これそのものが媚薬のようなもの……♥♥)

ずりっ♥ ぐちっ♥ ぬぢゅ……♥

「んくっ♥♥ う♥♥ あ、あ……♥♥」

(今の状態でさえ限界近いというのに……挿れられれば……♥♥)

【ところで……いいの? 抵抗するの忘れてるよ♪】

びくんっ♥

「っ♥♥ 挿れさせは、しないっ♥♥ そんな、汚らしいものっ♥♥」

【失礼だなー、牝を墮とすのに特化したただけだって】

べちんっ♥ びくうんっ♥

「おっひっ♥♥ 叩くなっ♥♥ おっ♥♥ 押し、付けるなあ♥♥」

【むしろ押し付けてるのサムスさんでしょ、蟹股になって腰落としてるし♪】

がくっ♥ びくっ♥

「な、あっ? ! ♥♥ こ、これは……き、貴様のウイルスのせいだっ♥♥」

【ウイルスのおかげで気持ち良くて腰が勝手に動くんでしょ? 自分から押し付けてるのとおんなじだって♪ じゃ遠慮なく…
…】

がしっ♥ ぎゅっむっ♥ ぐぢゅ……っ♥

「よせ、やめろおほっ♥♥ も、もう胸は……ああっ♥♥」

ずぶうんっ♥

「あああああっ♥♥♥♥」

まるで自ら迎え入れたかのような形で挿入を許してしまう。

勢いよく突き挿さった巨根は一気にサムスの最奥まで届き、蟹股に開いた腰が即座に震えて愛液を噴き出す。

ウイルスと愛撫により昂っていた肉壺が、今の一撃で早々に絶頂させられたのだ。

(い……挿れさせてしまった……♥♥ しかも……こ、この感覚は……♥♥)

【あー、やっぱり痴漢ハメってサイコー♪ ていうかサムスさん今イッたでしょ♪】

びくうっ♥

「ほざくなっ♥♥ いいから……早く、抜……♥♥」

【あ、『良い』んだ♪】

ずりゅっ♥

「おっ♥♥ 違っ♥♥」

ずちゅっ♥ ずぶんっ♥

「くひっ♥♥ 動かすなっ♥♥ 早くっ♥♥ 抜けっ♥♥」

【ここでしょ♪】

ごりゅんっ♥

「お♥♥ お……っ♥♥」

(奥っ♥♥ また——♥♥)

びぐんっ♥♥ びくうっ♥♥

「ふっっ♥♥♥ ———っ♥♥♥」

【またイッちやったよ♪ サムスさんのオマンコ弱すぎ♪】

(また♥♥♥ この感覚っ♥♥♥ こ、これが……絶頂……っ♥♥♥)

◆
(まさか……この私が、慰みものにされるとは……っ！)

……あの後、何とか体力と気力を取り戻し、依頼を完遂したサムス。

その働きぶりが評価され、また同じ依頼者から呼ばれて同じ星の同じ路線を使用していた。

吊り革を掴んで立つと、やはり以前の被害を思い出す。

それまであまり意識していなかったが、自分が性的興奮の対象となるのは理解した。

となれば、二度と同じ手を食わないよう警戒を強める。そしてあの痴漢を探し出し、相応の報復をする。

ただ依頼者の下に向かうだけでなく、痴漢を見つけることも目的に乗車しているのだ。

(心なしか、以前よりも更に視線が集まっているような……)

周りは少年ばかりで、大人の女性や珍しい容姿に慣れていないのか、チラチラとサムスを見てくる。

視線されるのも不快だが、もしかすればこの中にあの痴漢がいるかもしれない。

(人の身体をジロジロと……だが、この調子が続けば奴に会える可能性も……)

がついっ♡

「んっ♡♡♡」

(なっ……♡ こ、この少年までもが……痴漢、だと……っ♡)

しかし、こうして囷となっていれば、いつかは奴も……♡)

混雑を耐えていると、早速後ろの少年に尻を鷲掴みされる。再び痴漢と遭遇したのだ。

今すぐにも引き剥がしたいが、サムスの目的は以前の痴漢を捕えること。

ここで目立てば隠捜査じみた行為も無駄になりかねないと、まず小声で諭してみるが……